

令和3年度新入生 総合美容コース教育課程一覧

	授業課目	実務経験	第1学年	第2学年	単位数合計	法定単位数
必修課目	関係法規・制度	なし		1	1	1
	衛生管理	有	1	2	3	3
	保健	有	1	2	3	3
	香粧品化学	有		2	2	2
	文化論	有	1	1	2	2
	美容技術理論	有	3	2	5	5
	運営管理	なし	1		1	1
	サロン実習Ⅰ	有	3		3	
	カット	有	4	3	7	
	ワインディング	有	3	3	6	
	オールウェーブ	有	1	3	4	
	ヘアアレンジⅠ	有	1		1	
	アイⅠ	有	1		1	
	エステⅠ	有	1		1	
美容実習	ネイルⅠ	なし	3		3	
	メイクⅠ	有	3		3	
	和装Ⅰ	有	1		1	
	美容実習計		21	9	30	30
	必修課目小計		28	19	47	47
選択課目	ファッショングデザイン	なし	1		1	
	美容英会話	有	1		1	
	パーソナルカラーⅠ & Ⅱ or 総合演習	有	1	1	2	
	美容総合演習	有		1	1	
	サロン実習Ⅱ	有		3	3	
	ヘアデザインⅡ	有		2	2	
	ヘアアレンジⅡ	有		1	1	
	アイⅡ or 美容実習Ⅱ	有		2	2	
	エステⅡ or 美容実習Ⅱ	有		1	1	
	ネイルⅡ or 美容実習Ⅱ	なし		1	1	
	メイクⅡ or 美容実習Ⅱ	有		1	1	
	和装Ⅱ or 美容実習Ⅱ	有		2	2	
	サロン演習A	有	1		1	
	サロン演習B	有	1		1	
	美容総合技術計		2	13	15	
選択課目小計			5	15	20	20
合計			33	34	67	67

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	衛生管理	課 目	必修課目	単 位 数	1 (卒業までに計3)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務における衛生措置の意義・原理を理解させ、適正な実施方法を身に付けさせる				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美容師として注意を払わなければならない環境衛生や感染症、消毒方法などを理解できる
成績評価	単位認定（進級）試験 60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	公衆衛生の意義と課題
第 2 回	公衆衛生発展の歴史
第 3 回	欧米の公衆衛生の歩み
第 4 回	我が国の公衆衛生の歩み
第 5 回	消毒法の歴史
第 6 回	理容師・美容師と公衆衛生
第 7 回	歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生
第 8 回	公衆衛生理容師・美容師
第 9 回	保健所と理容業・美容業
第 10 回	保健母子保健
第 11 回	成人・高齢者保健
第 12 回	精神保健
第 13 回	環境衛生の内容
第 14 回	環境衛生の目的と意義
第 15 回	環境衛生活動
第 16 回	空気環境
第 17 回	空気と健康
第 18 回	温度、湿度、気流（風）と健康
第 19 回	衣服・住居の衛生
第 20 回	衣服の衛生
第 21 回	住居の衛生
第 22 回	上・下水道と廃棄物
第 23 回	上水道
第 24 回	下水道
第 25 回	廃棄物
第 26 回	衛生害虫とネズミ
第 27 回	衛生害虫
第 28 回	ネズミ
第 29 回	環境保全
第 30 回	水質汚濁

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	保健	課 目	必修課目	単 位 数	1 (卒業までに計3)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うため、皮膚・毛髪などの正確な科学的知識を身に付けさせる				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造、機能、皮膚やその付属器官毛髪の詳細を理解できる
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	頭部、顔部、頸部の体表解剖学
第 2 回	骨角器系
第 3 回	筋系
第 4 回	神経系
第 5 回	感覚器系
第 6 回	血液・循環器系
第 7 回	呼吸器系
第 8 回	消化器系
第 9 回	皮膚の表面・断面
第 10 回	表皮・真皮
第 11 回	皮下組織
第 12 回	皮膚の部位差
第 13 回	毛
第 14 回	脂腺（皮脂腺）
第 15 回	汗腺
第 16 回	爪
第 17 回	皮膚の血管
第 18 回	皮膚のリンパ管
第 19 回	皮膚の神経
第 20 回	対外保護作用
第 21 回	体温調整作用
第 22 回	知覚作用と皮膚反射
第 23 回	分泌排泄作用
第 24 回	呼吸作用
第 25 回	吸収作用
第 26 回	貯蔵作用
第 27 回	免疫・解毒・排泄作用
第 28 回	再生作用
第 29 回	毛のはたらき
第 30 回	爪のはたらき

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	文化論	課 目	必修課目	単 位 数	1 (卒業までに計2)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を全うするために、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養う				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美的感覚と表現力を養うと共に、美容やファッションの文化史を学びヘアデザインに役立てる
成績評価	課題評価60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	日本の理容業・美容業の歴史（理容業・美容業の発生）
第 2 回	日本の理容業・美容業の歴史（江戸時代の理容業・美容業）
第 3 回	日本の理容業・美容業の歴史（近代・現代の理容業・美容業）
第 4 回	ファッション文化史 西洋編
第 5 回	（古代エジプト）（古代ギリシャ・ローマ）（古代ゲルマン）（中世ヨーロッパ）
第 6 回	
第 7 回	ファッション文化史 西洋編（近世I／16世紀）
第 8 回	
第 9 回	ファッション文化史 西洋編（近世II／17世紀）
第 10 回	
第 11 回	ファッション文化史 西洋編（近世III／18世紀）
第 12 回	
第 13 回	ファッション文化史 西洋編（近代I／18世紀末～19世紀初め）
第 14 回	
第 15 回	ファッション文化史 西洋編（近代II／19世紀）
第 16 回	
第 17 回	ファッション文化史 西洋編（現代I／1910年～1920年代）
第 18 回	
第 19 回	ファッション文化史 西洋編（現代II／1930年～1940年代前半）
第 20 回	
第 21 回	ファッション文化史 西洋編（現代III／1940年後半～1950年代）
第 22 回	
第 23 回	ファッション文化史 西洋編（現代IV／1960年代）
第 24 回	
第 25 回	ファッション文化史 西洋編（現代V／1970年代）
第 26 回	
第 27 回	ファッション文化史 西洋編（現代VI／1980年代）
第 28 回	
第 29 回	ファッション文化史 西洋編（現代VII／1990年代～2010年代）
第 30 回	

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	技術理論	課 目	必修課目	単 位 数	1 (卒業までに計5)
授業方法	講義・実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務における衛生・能率的に実施する態度・習慣を養い、科学的合理的な方法を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	シャンプー、カット、パーマ、カラー、日本髪、着付けなどの基礎的技術理論を身に付ける
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	美容技術における作業姿勢
第 2 回	美容技術に必要な人体各部の名称・美容技術における用具
第 3 回	コーム・ブラシ・シザーズ・レザー・ピン類・ヘアクリップ
第 4 回	ロッド・ローラー・ヘアアイロン・ヘアドライヤー・ヘアスチーマー・遠赤外線機
第 5 回	シャンプーイング総論
第 6 回	サイドシャンプー・バックシャンプー
第 7 回	リンス・コンディショナー・トリートメント
第 8 回	スキャルプトリートメント・ヘッズスパ
第 9 回	美容とデザイン
第 10 回	ヘアカッティングとは・シザーズとレザーの扱い方・美容刃物・ヘアカッティングの正しい姿勢
第 11 回	プロッキング・ヘアカッティングの基礎理論・ベーシックなカット技法
第 12 回	シザーズによるカット技法
第 13 回	レザーによるカット技法
第 14 回	パーマネントウェーブの歴史と現在・パーマネントウェーブの理論・パーマ剤の分類
第 15 回	パーマ剤に関する注意事項・パーマネントウェーブ技術
第 16 回	ワインディングのバリエーション・縮毛矯正（高温整髪用アイロン使用）
第 17 回	ヘアセッティングとは・ヘアパーティング・ヘアシェーピング
第 18 回	ヘアカーリング
第 19 回	ヘアウエービング
第 20 回	ローラーカーリング
第 21 回	ブロードライ・アイロンセッティング
第 22 回	バックコーミング・アップスタイル・ウィッグとヘアピース
第 23 回	ヘアカラーリング概論・ヘアカラーの種類
第 24 回	ヘアカラーのタイプ別特徴
第 25 回	染毛のメカニズム
第 26 回	色の基本
第 27 回	毛髪のレベルとアンダートーン
第 28 回	パッチテスト（皮膚貼布試験）・染毛剤使用時の注意事項
第 29 回	ヘアカラーリングの道具・酸化染毛剤（アルカリ性タイプカラー）の技術手順
第 30 回	酸性染毛料の技術手順・ヘアブリーチ（脱色）

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	ヘアデザインⅠ (技術理論)	課 目	必修課目	単 位 数	2 (卒業までに計2)
授業方法	講義・実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務における衛生・能率的に実施する態度・習慣を養い、科学的合理的な方法を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	カット、パーマ、カラー、などの基礎的技術理論を身に付け、ヘアデザインに役立てる。
成績評価	課題評価 60点以上

授業計画・内容	
第1～ 4回	美容技術における作業姿勢
第5～ 8回	美容とデザイン
第9～ 12回	ヘアカッティングとは・シザーズとレザーの扱い方・美容刃物・ヘアカッティングの正しい姿勢
第13～ 16回	ブロッキング・ヘアカッティングの基礎理論・ベーシックなカット技法
第17～ 20回	シザーズによるカット技法
第21～ 24回	パーマネントウェーブの理論・パーマ剤に関する注意事項・パーマネントウェーブ技術
第25～ 28回	ヘアデザイン演習（第1課題）
第29～ 32回	ヘアデザイン演習（第1課題）
第33～ 36回	ヘアデザイン演習（第1課題）
第37～ 40回	ヘアデザイン演習（第2課題）
第41～ 44回	ヘアデザイン演習（第2課題）
第45～ 48回	ヘアデザイン演習（第3課題）
第49～ 52回	ヘアデザイン演習（第3課題）
第53～ 56回	ヘアデザイン演習（第4課題）
第57～ 60回	ヘアデザイン演習（第4課題）

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	運営管理	課 目	必修課目	単 位 数	1 (卒業までに計1)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	有しない教員
経験活用					
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	接客の意義と技術、経営管理や労務管理の基本を理解し、運営上の管理手法を身に付ける。
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	経営とは・経営者とは
第 2 回	業界の概要
第 3 回	競争の変化
第 4 回	サービスとしての理容・美容
第 5 回	理容業・美容業の顧客
第 6 回	資金管理の重要性
第 7 回	収支と損益
第 8 回	会計の考え方
第 9 回	コストを管理する
第 10 回	税金について
第 11 回	給与
第 12 回	待遇・福利厚生
第 13 回	労働者の権利
第 14 回	健康管理の基礎
第 15 回	理容・美容の仕事と健康
第 16 回	理容業・美容業に特徴的な健康課題
第 17 回	理容・美容の作業環境に関する健康問題
第 18 回	社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任
第 19 回	社会保険
第 20 回	キャリアプランの重要性
第 21 回	サービス・デザイン
第 22 回	理容業・美容業のマーケティング
第 23 回	マーケティング・ミックス
第 24 回	マーケティング・ミックスの要因
第 25 回	サービスのシステム化
第 26 回	接客についての理解
第 27 回	接客の実践
第 28 回	接客におけるトラブルと対応
第 29 回	接客で発生が予想される問題
第 30 回	問題を深刻化させないための対策・対処

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	美容実習（サロン実習Ⅰ）	課 目	必修課目	単 位 数	3（卒業までに計3）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美容師として重要なシャンプーイング・ヘアカラーリングなどの基本技術と接客術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画		内容
第1～3回	オリエンテーション	(1) 授業の流れ、毎回の目標を確認し何を学ぶかを理解する。 (2) 接客業である美容師とは、どんな役割があるか考察する。 (3) サロン実習における作業姿勢などについて知る。
第4～6回	接客・接遇とは	接客業に求められるものについて知る。
第7～9回	第一印象の重要性	第一印象はなぜ大切か？を理解する。
第10～12回	言葉遣い	接客力を高めるための、敬語の使い方、接客でのクッション言葉を理解する。
第13～15回	電話応対	電話の特性と応対について理解する。
第16～18回	実践（敬語・接客用語）①	敬語・接客用語を使いこなせるようになる。 顧客の要望を聞く
第19～21回	実践（敬語・接客用語）②	敬語・接客用語を使いこなせるようになる。 顧客への提案。
第22～24回	貴女が選ばれるために (振り返りとまとめ)	全体を振り返り、接客業に必要なコミュニケーション能力について理解する。
第25～27回	美容用具	美容技術に必要な用具・道具類の名称や使用方法を知る。
第28～30回	シャンプーイング ①	シャンプーイングの目的を理解し、シャンプー剤の種類を知る。 シャンプーの基礎知識、技術を理解し実践できるようになる。
第31～33回	シャンプーイング ②	シャンプーイングの際の注意点や手法について知る。
第34～36回	シャンプーイング ③	シャンプー時のご案内でクロス掛け、ブラッシングの目的テクニックについて知る。
第37～39回	シャンプーイング ④	シャンプーを行う事前のすすぎの目的テクニックについて知る。
第40～42回	シャンプーイング ⑤	シャンプー後の濡れた毛髪の状態を理解し、タオルドライのポイントを知り、タオルターバンを行える
第43～45回	シャンプーイング ⑥	シャンプー後のマッサージをサロンで行うイメージをして相モデル力加減など技術を知る。

授業計画		内容
第46~48回	シャンピーリングの復習	シャンピーリングに関する内容の再確認をする。
第49~51回	テスト	相モデルでシャンピーリングを行い内容の理解をより深め速さや力加減など技術向上を図り、実践的なシャンプー・マッサージ技術を習得する。
第52~54回	ヘアカラーリング ①	ヘアカラーリング概論《酸化染毛剤・酸性染毛剤》ヘアカラーの種類について知る。
第55~57回	ヘアカラーリング ②	酸化染毛剤染毛のメカニズム、毛髪のレベルとアンダートーンについて知る。
第58~60回	ヘアカラーリング ③	酸化染毛剤の塗布テクニックについて知る。
第61~63回	パッチテストの必要性 染毛剤使用時の注意事項	パッチテストの必要性、染毛剤使用時の注意事項について知る。
第64~66回	ヘアカラーリング ④	酸性染毛剤のメカニズムについて知る。
第67~69回	ヘアカラーリング ⑤	酸性染毛剤の塗布テクニックについて知る。
第70~72回	ヘアカラーリング ⑥	ホイルワーク概論、スライス方法テクニックについて知る。
第73~75回	ヘアカラーリング ⑦	ホイルワークのデザインについて考察。
第76~78回	ヘアカラーリング ⑧	ウィッグを使用し実践的なデザインの理解をより深め速さや技術向上を図る。
第79~81回	ヘアカラーリングの復習	ヘアカラーリングに関する内容について総合的に理解を再確認をする。
第82~84回	総括 ①	今期に学んだ部分全ての確認をし、知識を定着させる。
第85~87回	総括 ②	今期に学んだ部分全ての確認をし、知識を定着させる。
第88~90回	総合テスト	1年間学習を行った『サロン実習』について相モデルで実践的に施術を行い理解の確認。

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	美容実習（カット）	課 目	必修課目	単 位 数	4 (卒業までに計7)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ヘアスタイルをつくる上で重要なカッティング基礎技術（毛髪の長さ・疎密調節）を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第 1～4回	ヘアカット概論 美容理論教科書を使用し、基礎知識内容の指導 シザーズワーク、コームワークの練習の強化
第 5～8回	シザーズの持ち方、コームの持ち方、刃物の扱いの指導 心得 注意事項の確認 シザーズワーク、コームワークの練習の強化
第 9～12回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) ガイド作成に関しての、パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方
第 13～16回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方
第 17～20回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方
第 21～24回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方
第 25～28回	切り終えたカットウィッグをしようして、ブローをしてチェックカット ラインを修正させる。
第 29～32回	前下がりボブ ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 ワンレングスとの違いを理解させながら指導
第 33～36回	前下がりボブ ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 ワンレングスとの違いを理解させながら指導
第 37～40回	マッシュルームカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 ラインを作る際の注意事項の指導
第 41～44回	マッシュルームカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 ラインを作る際の注意事項の指導
第 45～48回	グラデーションカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 45度の角度の作り方、縦スライスへの移行の仕方
第 49～52回	グラデーションカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 45度の角度の作り方、縦スライスへの移行の仕方
第 53～56回	グラデーションカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 45度の角度の作り方、縦スライスへの移行の仕方
第 57～60回	グラデーションカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 45度の角度の作り方、縦スライスへの移行の仕方

授業計画・内容					
第 61~64回	ショートレイヤーカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 オンベースのパネルの引き出し方を 90 度の確認				
第 65~68回	ショートレイヤーカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 オンベースのパネルの引き出し方を 90 度の確認				
第 69~72回	ショートレイヤーカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 オンベースのパネルの引き出し方を 90 度の確認				
第 73~76回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方				
第 77~80回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方				
第 81~84回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 チックカット時の手順、方法の指導				
第 85~88回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導				
第 89~92回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導				
第 93~96回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導				
第 97~100回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導				
第 101~104回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導				
第 105~108回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導				
第 109~112回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導				
第 113~116回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導				
第 117~120回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導				

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科目名	美容実習（ワインディング）	課 目	必修課目	単 位 数	3（卒業までに計6）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ヘアスタイルを形成保持する上で欠くことのできないパーマネントウェーブの技法を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第 1～3回	ワイディング概論 美容技術理論の教科書を参照しながらブロッキングの仕方 ラバーの止め方の流れを確認し、動作をおぼえさせる。
第 4～6回	ウイッグを使用して、ブロッキングを練習させながら、コームを使用して頭毛を10ブロック分けることができるよう反復練習
第 7～9回	ウイッグを使用して、ブロッキングを練習させながら、コームを使用して頭毛を10ブロック分けることができるよう反復練習
第 10～12回	フロントブロックを12ミリのロットで巻く練習（上巻き） スライス、コーミング、テンションを覚えさせて反復練習させる。
第 13～15回	フロント、クラウン、トップを12ミリのロットで巻く練習（上巻き） スライス、コーミング、テンションを覚えさせて反復練習させる。
第 16～18回	ロント、クラウン、トップを12ミリのロットで巻く練習（上巻き）バック（下巻き）の練習 スライス、コーミング、テンションを覚えさせて反復練習させる。
第 19～21回	センターをオールパーカスの規定で巻く（20分） ※下巻きのスピードアップ1本（20秒～15秒）
第 22～24回	センター、バックサイド、サイド（バックサイドのスライスのとり方） センターバックサイドのつなぎの
第 25～27回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（40分）タイム計測
第 28～30回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（35分）タイム計測
第 31～33回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（30分）タイム計測
第 34～36回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（25分）タイム計測
第 37～39回	全頭確認試験卷バランス、スライスのとり方の確認（25分） 評価目標 60点以上

授業計画・内容				
第 40~45 回	新課題レクチャー ブロッキング スライス展開 オンベース、2 分の 1 OFF ベース			
第 46~50 回	センターパート フロントスライス バックサイドスライス サイドスライス スライスのとり方、配列 ラウンドのつけ方を指導			
第 51~55 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 タイム計測 40 分			
第 56~60 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 タイム計測 35 分			
第 61~65 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 ラバーの止め方 ステムの方向 タイム計測 35 分 × 2 回			
第 66~70 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 ラバーの止め方 ステムの方向 タイム計測 30 分 × 2 回			
第 71~75 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 評価 タイム計測 30 分 × 2 回			
第 76~80 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 評価 タイム計測 25 分 × 2 回			
第 81~89 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 評価 タイム計測 20 分 × 2 回			
第 90 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 確認試験 タイム計測 20 分			

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	美容実習(オールウェーブ)	課 目	必修課目	単 位 数	1(卒業までに計4)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ヘアスタイルを形づくる技術であるオリジナルセットの基本を中心に身につける
成績評価	単位認定(進級) 試験60点以上

授業計画・内容	
第 1～3回	オールウェーブ概論を説明 美容技術理論教科書を参照し理解を深める
第 4～6回	指定のウィッグをウェーブ専用にカットさせる。フロント20センチ、トップ20センチ、サイド15センチ、ネープ15センチにカットさせる。(自分でカットすることが深い理解につながる)
第 7～9回	指定の長さにカットされたウィッグにシステム0度で根元に角度をつけないで毛先にパーマをあてる。1液放置タイム20分以上 中間プレーリンス後 2剤6分×2回塗布し、ロットアウト後頭髪を乾燥する。
第 10～12回	コームの使い方、持ち方を指導 ウィッグにセットローションの塗布の仕方を指導 コームを使用して左右に毛髪を動かす練習をさせ、コーム回転、コーム並行移動を指導
第 13～15回	コームを使用して左右に毛髪を動かす練習をさせ、コーム回転、コーム並行移動を指導 指の押さえ方、腕の角度を指導しながら、反復練習
第 16～18回	ウェーブの幅、リッジの作り方などの反復練習をさせ、バランスのとり方を学習させる。
第 19～21回	ウェーブの幅、リッジの作り方などの反復練習をさせ、バランスのとり方を学習させる。
第 22～24回	ウェーブの幅、リッジの作り方などの反復練習をさせ、バランスのとり方を学習させる。
25～26 第回	ウェーブの幅、リッジの作り方などの反復練習をさせ、バランスのとり方を学習させる。 7段構成の練習をさせ、全体の構成を理解させる。
第 27～29回	ノーパート7段構成を(40分～50分)位で完成するスピードをつける。 リッジ、面の構成指導
第 30 回	7段構成を練習させる。タイム目標45分 60点以上の完成度を目指し確認試験 (自己採点で作品の評価練習)

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	美容実習(ヘアアレンジI)	課 目	必修課目	単 位 数	1 (卒業までに計1)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	長さのある毛髪を、頭頂部の方へまとめあげるアップスタイルの基礎技術を身につける
成績評価	単位認定(進級) 試験 60点以上

授業計画・内容	
第1・2回	三つ編み(表、裏) 四つ編み
第3・4回	三つ編み(表、裏) 四つ編みの復習 平ゴムの止め方 ピンうち 基本と隠しピン
第5・6回	コテの基本の持ち方使い方 編みコテ巻きのほぐし ロープ編みハーフスタイル
第7・8回	三つ編み(表、裏) 四つ編みの復習 編み込み 編みほぐし方
第9・10回	三つ編み(表、裏)、四つ編み、編み込みの復習
第11・12回	三つ編み(表、裏) 確認
第13・14回	コテ巻き(基本) 復習 コテ巻き(応用) 波ウェーブ
第15・16回	コテ巻き 波ウェーブ(復習) ツイスト巻き
第17・18回	編みの太さを変える ロープ、三つ、四つ編み(自由な発想で) フィッシュボーン
第19・20回	ロープ編み込み ロープ編みのピンうち 編みほぐし方
第21・22回	フィッシュボーン(復習) フィッシュボーンとロープ編みを使ったスタイル
第23・24回	フィッシュボーンとロープ編みを使ったスタイル 確認
第25・26回	基礎総合技術を活かしたスタイルデザイン(個別テーマ)
第27・28回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第29・30回	基礎技術確認

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	美容総合技術(アイ I)	課 目	選択課目	単 位 数	1 (卒業までに計1)
授業方法	講義・実習	授業時期	後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術を基に、さらに高度な総合的技術・知識を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	まつ毛エクステンションを安全・安心に施術するための基礎的な理論・技術を身につける
成績評価	出席・課題完成度80%以上

授業計画・内容	
第1・2回	まつ毛エクステンション概論／用具説明・使用上の注意
第3・4回	まつ毛エクステンションの用具
第5・6回	衛生管理／ワゴンセッティング・手指消毒
第7・8回	衛生管理／固定テープの貼り方・まつ毛クレンジング
第9・10回	ツイーザーの持ち方・まつ毛のかき分け方・Jカール装着・グルーの取り扱い
第11・12回	保健／Jカール装着
第13・14回	Jカール装着・リムービング
第15・16回	保健／Cカール装着
第17・18回	保健／Cカール装着・リムービング
第19・20回	Jカール装着・リムービング
第21・22回	手指消毒・エクステンション装着・リムービング
第23・24回	カウンセリング理論／固定テープ（両目貼り）・まつ毛クレンジング
第25・26回	カウンセリング理論／Jカール装着・リムービング
第27・28回	手指消毒・エクステンション装着・リムービング
第29・30回	理論復習／固定テープ（両目貼り）・まつ毛クレンジング

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	美容実習（エステⅠ）	課 目	必修課目	単 位 数	1（卒業までに計1）
授業方法	講義・実習	授業時期	後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美しく健康な皮膚を維持する生理機能を整えるためマニピュレーションなどの技術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60点以上

授業計画・内容	
第1・2回	エステティック概論
第3・4回	ワゴンセッティング、ベッドメイキング
第5・6回	ポイントクレンジング、ハンドクレンジング、ふき取り
第7・8回	相モデル実習
第9・10回	ポイントクレンジング～ハンドクレンジング～ふき取り
第11・12回	皮膚の生理と構造
第13・14回	相モデル実習
第15・16回	フェイシャルマッサージ
第17・18回	皮膚の生理と構造
第19・20回	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック
第21・22回	皮膚の生理と構造、カウンセリング、スキンチェック
第23・24回	機器の取り扱い：スチーマー、ブラシクレンジング、吸引
第25・26回	マッサージ理論、衛生と消毒
第27・28回	検定対策
第29・30回	復習・確認

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	美容実習（ネイルⅠ）	課 目	必修課目	単 位 数	3（卒業までに計3）
授業方法	実習	授業時期	前期	実務経験	有しない教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	JNA テクニカルシステム（ベーシック）、公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	手の手入れを行い、指先を美しく健康的に清潔にする基礎知識・技術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方、教材説明）
第 2 回	ネイル理論（テーブルセッティング）
第 3 回	ネイル理論（消毒、ファイリング）
第 4 ~ 6 回	キューティクルクリーン理論（プッシュバック、プッシュアップ）
第 7 ~ 8 回	キューティクルクリーン理論（ガーゼ・ニッパー）
第 9 ~ 10 回	キューティクルクリーン理論（ガーゼ・ニッパー）
第 11 回	キューティクルクリーン理論（トータル）
第 12 回	キューティクルクリーン理論（トータル）
第 13 回	キューティクルクリーン理論（トータル）
第 14 ~ 17 回	カラーリング、カラーオフ
第 18 ~ 20 回	カラーリング、カラーオフ
第 21 ~ 26 回	ネイルアート
第 27 ~ 28 回	カラーリング～ネイルアート
第 29 回	JNEC ネイリスト技能検定3級対策
第 30 回	JNEC ネイリスト技能検定3級対策

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	美容実習（メイクⅠ）	課 目	必修課目	単 位 数	3（卒業までに計3）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	目的に合った顔づくりを目指し、顔の構造・部位に応じた基礎的な知識・技術を身に付ける
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第 1~3 回	メイク概論
第 4~6 回	道具の説明
第 7~9 回	セッティング
第 10~12 回	衛生、接客
第 13~15 回	第一印象と立ち居振る舞い
第 16~17 回	スキンケア&ベース
第 18~19 回	スキンケア&ベース
第 20~21 回	オイル洗顔
第 22~24 回	眉カット&アイブロウ
第 25~28 回	確認（スキンケア～アイメイク）
第 29~30 回	アイライン
第 31~33 回	復習（スキンケア～アイライン）
第 34~37 回	アイメイク（ハード）
第 38~42 回	マスカラ
第 43~47 回	チーク

授業計画・内容	
第 48~52 回	リップ
第 53~54 回	ハロウインメイク
第 55~56 回	ハロウインメイク
第 57~58 回	ハロウインメイク
第 59~65 回	スキンケア～リップまでの仕上がりの向上
第 66~70 回	タイムアップ
第 71~72 回	スキンケア～リップまでの仕上がりの向上
第 73~74 回	タイムアップ
第 75~77 回	スキンケア～リップまでの仕上がりの向上
第 78~80 回	タイムアップ
第 81~83 回	スキンケア～リップまでの仕上がりの向上
第 84 回	確認（スキンケア～リップ）
第 85~86 回	スキンケア～リップまでの仕上がりの向上
第 87~88 回	復習（スキンケア～リップ）
第 89~90 回	確認（スキンケア～リップ）

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	美容実習（和装Ⅰ）	課 目	必修課目	単 位 数	1（卒業までに計1）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	日本の伝統的な文化・風俗を学びながら、新日本髪・着付けの基礎技術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60点以上

授業計画・内容	
第1・2回	オリエンテーション（授業の進め方、着物の名称、着物のたたみ方、ひもの片付け方）
第3・4回	浴衣（一人着付け①）※男女別課題
第5・6回	浴衣（一人着付け②）※男女別課題
第7・8回	浴衣（二人組ボディ着付け①）※男女同一課題
第9・10回	浴衣（二人組ボディ着付け②）※男女同一課題
第11・12回	浴衣着付け（復習・確認）
第13・14回	新日本髪①（ブロッキング）
第15・16回	新日本髪②（逆毛の立て方）
第17・18回	新日本髪③（ゴムの括り方・ピンの打ち方）
第19・20回	新日本髪④（根のつくり方）
第21・22回	新日本髪⑤（左右の髪のつくり方）
第23・24回	新日本髪⑥（前のつくり方）
第25・26回	新日本髪⑦（全頭完成）
第27・28回	新日本髪⑧（バランス・艶の出し方・復習）
第29・30回	新日本髪⑨（復習・確認）

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	ファッションデザイン	課 目	選択課目	単 位 数	1 (卒業までに計1)
授業方法	講義・実習	授業時期	前期・後期	実務経験	有しない教員
経験活用					
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美的感覚と表現力を養うと共にヘアデザインに役立てる。
成績評価	課題評価 60点以上

授業計画・内容	
第1・2回	鉛筆の削り方、顔のプロポーション
第3・4回	顔の部分練習 基礎編
第5・6回	顔の描き方 正面向き
第7・8回	顔の描き方 斜め向き
第9・10回	顔の描き方 横向き
第11・12回	角度の変化による顔型
第13・14回	ヘアの描き方 毛先の表現、線の長さによる違い
第15・16回	ヘアの描き方 ウエーブヘア
第17・18回	ヘアの描き方 ぼかして消しゴムで描く
第19・20回	ヘアの描き方 線の強弱
第21・22回	いろいろな描き方
第23・24回	顔の部分練習 応用編
第25・26回	配置によるイメージの違い
第27・28回	ヘアスタイルによるイメージの違い
第29・30回	同じ顔でイメージを変える

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	美容英会話	課 目	選択課目	単 位 数	1 (卒業までに計1)
授業方法	講義・演習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務におけるコミュニケーションツールとして実践的なサロン英語を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	国際的な美容師を目指し、幅広い英語表現の会話を通して学び、実践的な英語を身に付ける
成績評価	単位認定（進級）試験 60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	自分について話そう
第 2 回	自分について話そう／発展 好き・嫌い
第 3 回	あいさつ
第 4 回	あいさつ／発展 英語の時制
第 5 回	電話での接客
第 6 回	電話での接客／発展 電話の英語
第 7 回	コンサルテーション
第 8 回	コンサルテーション／発展 髪質の表現
第 9 回	シャンプー＆トリートメント
第 10 回	シャンプー＆トリートメント／発展 英語の発音
第 11 回	ヘアカット
第 12 回	ヘアカット／発展 カットの技術
第 13 回	パーマ
第 14 回	パーマ／発展 現在完了形
第 15 回	ヘアカラー
第 16 回	ヘアカラー／発展 色彩の表現
第 17 回	仕上げ
第 18 回	仕上げ／発展 長さと温度
第 19 回	お会計
第 20 回	お会計／発展 チップの基本
第 21 回	クレーム対応
第 22 回	クレーム対応／発展 混乱を避ける
第 23 回	海外研修
第 24 回	海外研修／発展 街での英語
第 25 回	サロンの場面から／メイクアップ
第 26 回	サロンの場面から／ネイルケア
第 27 回	サロンの場面から／シェービングと衛生
第 28 回	サロンの場面から／和装着付と写真撮影
第 29 回	美容師のための和英表現／サロン
第 30 回	美容師のための和英表現／サロンワーク

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	パーソナルカラー I	課 目	選択課目	単 位 数	1 (卒業までに計1)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務におけるファッションと、肌や髪色を基礎とするパーソナルカラーの知識を身に付ける				
教 科 書	パーソナルカラリスト検定3級公式テキスト				

到達目標	色の持つ文化的・感覚的な力を理解し、美容業の実践に生かせる知識を習得する
成績評価	単位認定(進級) 試験60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	色彩と文化 (導入)
第 2 回	日本の色の歴史 (特徴的な伝統色)
第 3 回	身分階級と色 (歴史の中での色の使われ方)
第 4 回	江戸時代の色彩文化 (色彩文化の推進力)
第 5 回	色と生活 (周りを取り巻くさまざまな色)
第 6 回	色の種類 (色の系統とイメージ)
第 7 回	色の種類 (白・黒・グレー系統の意味合い)
第 8 回	色のしくみ (視覚の3要素)
第 9 回	色のしくみ (物体色と光源色)
第 10 回	色のしくみ (光の波長と色)
第 11 回	光源の特性 (スペクトルと色味の影響)
第 12 回	眼の構造と働き (視覚情報の伝達経路)
第 13 回	眼の構造と働き (構造部位の機能)
第 14 回	有彩色と無彩色 (色味とイメージ)
第 15 回	色の三属性 (色の持つ3つの性質)
第 16 回	CUS表色系 (カラーアンダートーンシステムについて)
第 17 回	CUS色相 (視覚的な色の調和)
第 18 回	CUS色調 (明度と彩度の属性)
第 19 回	色相配色 (色相環上における色同士の位置関係)
第 20 回	色相配色 (同系色相・類系色相・反対色相)
第 21 回	色調配色 (色の調子)
第 22 回	色調配色 (同系色調・類系色調・反対色調)
第 23 回	色の三属性と対比現象 (明度対比・彩度対比・色相対比)
第 24 回	色の感情効果 (色のもたらす心理効果)
第 25 回	CUS配色効果 (アンダートーン配色)
第 26 回	アンダートーン配色テクニック (ファッションとの配色調和)
第 27 回	ブライダルと色彩 (ウェディングと配色調和)
第 28 回	パーソナルカラー (肌色のしくみ)
第 29 回	パーソナルカラー (皮膚の構造・髪色の科学)
第 30 回	パーソナルカラーの特徴 (人の特徴によるパーソナルカラー診断)

令和3年度 総合美容コース 第1学年 シラバス

科 目 名	サロン演習A	課 目	選択課目	単 位 数	1 (卒業までに計1)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業界で活躍するために必要な実践的な知識・意識・技術を身に付ける				
教 科 書	オリジナル教材				

到達目標	チームによる課題制作を通じ、協働力・統率力・計画力・実践力等のコンピテンシーを身につける
成績評価	出席・課題完成度 80%以上

授業計画・内容		
第 1 回	第1課題：ウイッグスタイル課題制作	基本的なカット、スタイルの作り方、好きなヘアスタイルやなどを知る。今後、表現したいスタイルイメージを個々に考える。
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回	美容師としての基本技術をウイッグ課題制作を通して学び、チームとして一つのスタイルを作り上げる喜びや充実感、そして現役美容師さんから教わる活きた技術、教わる事を通して自己の成長に繋げる。	作りたいウイッグのイメージをデッサンにより具体的にする。チーム内でディスカッションを経てチームで共同作成するスタイルを確定。
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		
第 16 回	第2課題：モデルスタイル課題制作	骨格診断からカッコイイや可愛いを論理的に学ぶ。相モデルで相手の顔診断、子供顔、大人顔、似合うスタイルなどを学ぶ。
第 17 回		
第 18 回		
第 19 回		
第 20 回	ウイッグでの基本技術+モデルへの似合わせ、総合的な（ヘア、メイク、衣装）バランスなどの感性を養う機会を作り、より美容業への興味関心を高める。	スタイル実演、チーム毎に相モデルで練習。美容師さんの技術を学びつつ、自己表現とチーム役割分担しながらスタイルに向き合う。
第 21 回		
第 22 回		
第 23 回		
第 24 回	最終的にはウイッグでの中間審査会、モデルフォトコンテストにより課題評価を行う。	
第 25 回		クリエイティブスタイル準備。ヘアスタイルやメイク、衣装や小道具、どの様な空気感を作るか美容師と相談しながら練習。撮影も開始する。
第 26 回		
第 27 回		
第 28 回		
第 29 回		
第 30 回		モデルを完成させ、フォトショーティングを行う。指導者はチーム毎に評価を行い、学習の振り返りを行う。

科目名	サロン演習B	課目	選択課目	単位数	1(卒業までに計1)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業界で活躍するために必要な実践的な知識・意識・技術を身に付ける				
教科書	オリジナル教材				

到達目標	美容業界における実践的な知識・意識・技術を体感し、先端デザインなどの表現力を身につける
成績評価	出席・課題完成度80%以上

授業計画・内容		
第1回		サロン就職時、就職後も集客に活用できるSNSでの情報発信の仕方や個人のファンの付け方などを学ぶ。
第2回	SNSでブランディング・集客	
第3回		
第4回		配信するコンテンツの企画をどの様に考えているか?動画を作る上で大変なことや気をつけている事、配信の意味などを学ぶ。
第5回	美容師Youtuber	
第6回		
第7回	正しいメイクの仕方、コスメ選びのポイント	肌のトラブルのアドバイスができる様に学ぶ。
第8回		
第9回	ファッショセンスのある美容師になるには	美容師として働く上で、かなり重要なファッショセンスをスタイリストから学ぶ。
第10回		
第11回	時短ヘアアレンジ	「朝、時間が無い」「難しくてやり方がわからない」などの悩みへの美容アドバイスを学ぶ。
第12回		
第13回	編み込み・編み降ろしアレンジ	ウエディングや着物に合う様な、細かく繊細なスタイル(編み込み、編みおろし)を2パターン作り込み、学ぶ。
第14回		
第15回		カウンセリングの際に、流行しているアニメなどのキャラクターのヘアスタイル(2次元)をオーダーされるときがあり、3次元に再現するための特殊な知識・技術を学ぶ。
第16回		
第17回	アニメキャラヘアスタイル作り	
第18回		
第19回		インスタ映えするカラーとして絶大な人気を誇る「ユニコーンカラー」。パステルカラーやビビッドカラーを使用してユニコーンの様な色にするカラーの施術を学ぶ。
第20回		
第21回	ユニコーンカラー	
第22回		
第23回		女性が憧れる小顔ニーズに対応した新規客リピート向上策に繋がる骨格・髪質によって違う理想のカット理論・方法について人気スタイリストから学ぶ。
第24回		
第25回	現場でも活かせる、小顔カット	
第26回		
第27回		今の時代必須となっているアイロン、ワックスを上手に活用したカッコいいメンズスタイルを学ぶ
第28回	超束感メンズスタイル	
第29回		
第30回	スタイル撮影の感性を磨くには	可愛いスタイルを撮影できる感性を学ぶ。

令和3年度入学生 第2学年 シラバス

科目名	関係法規・制度	課目	必修課目	単位数	1(卒業までに計1)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	有しない教員
経験活用					
教科書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美容師法を中心に、関係法令の内容を理解し、公衆衛生を担う社会的責任について理解できる。
成績評価	単位認定(進級) 試験60点以上

授業計画・内容	
第1回	法制度の概要(社会生活における法の役割)
第2回	法制度の概要(法の種類、わが国における法体系)
第3回	衛生行政の概要
第4回	衛生行政の法と行政の関係
第5回	衛生行政の意義
第6回	衛生行政の歴史
第7回	衛生行政の種類
第8回	衛生行政機関
第9回	美容師法の目的
第10回	美容師法の歴史
第11回	美容師法の体系用語の定義
第12回	美容師法の体系用語の定義
第13回	美容師の資格制度
第14回	美容師養成施設・試験・免許
第15回	前期総まとめ
第16回	美容師免許
第17回	美容師免許・登録
第18回	美容師の義務
第19回	美容師の義務
第20回	美容所開設の届出
第21回	美容所開設が講ずべき措置
第22回	美容所以外での業務
第23回	出張美容
第24回	違反者に対する行政処分
第25回	違反者に対する罰則
第26回	生活衛生同業組合
第27回	美容師法復習
第28回	関係法規(美容所経営)
第29回	関係法規(美容試験)
第30回	総まとめ・国家試験対策

科目名	衛生管理	課目	必修課目	単位数	2 (卒業までに計3)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務における衛生措置の意義・原理を理解させ、適正な実施方法を身に付けさせる				
教科書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美容師として注意を払わなければならない環境衛生や感染症、消毒方法などを理解できる。
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	感染症発見の歴史、感染症と法律
第 2 回	感染症の分類、微生物の種類
第 3 回	微生物の形と大きさ、微生物の構造
第 4 回	微生物の病原性と人体の感受性、汚染・感染症及び発病
第 5 回	常在細菌叢、免疫と予防接種
第 6 回	感染症発生の要因、感染症予防の3原則
第 7 回	空気・飛沫を介して感染する感染症、飲食物を介して感染する感染症
第 8 回	血液等を介して感染する感染症、動物・節足動物を介して感染する感染症
第 9 回	標準予防策、咳のある客への対応
第 10 回	病変の皮膚をもつ客への対応、嘔吐をした客への対応
第 11 回	病原微生物と非病原微生物、消毒の原理
第 12 回	汚染・感染・発病と消毒の意義、殺菌・消毒・滅菌・防腐の定義
第 13 回	消毒に関連のある法の定義、消毒を怠った場合の危険性と理容師・美容師の責任
第 14 回	消毒法の種類、消毒（殺菌）に必要な条件
第 15 回	病原微生物の抵抗力、消毒薬・消毒薬使用液の使用・保存上の注意
第 16 回	紫外線消毒、煮沸消毒
第 17 回	蒸気（大気圧下の蒸気）消毒、その他の理学的消毒
第 18 回	アルコール類による消毒、次亜塩素酸ナトリウム（塩素剤）による消毒
第 19 回	界面活性剤（逆性石けん・界面活性剤）による消毒、グルコン酸クロルヘキシジンによる消毒
第 20 回	その他の消毒薬、すぐれた消毒法の条件
第 21 回	消毒を行う際の注意事項、消毒薬の概要
第 22 回	器具の使い方、常備しておくとよい消毒薬と希釀液の濃度
第 23 回	消毒薬希釀法、理容所・美容所における消毒の原則
第 24 回	理容所・美容所の消毒設備、理容・美容器具類の消毒法（布片などの用具を含む）
第 25 回	理容師・美容師の手指の消毒、その他のものの消毒
第 26 回	清潔保持と清掃、洗剤による消毒法
第 27 回	洗い場の構造と清潔保持、清掃
第 28 回	清掃、刈り取った毛の処理、ふた付き汚物箱などの消毒
第 29 回	ハエやカなどの駆除
第 30 回	衛生管理の実践例

授業計画・内容	
第 31 回	公衆衛生の意義と課題
第 32 回	公衆衛生発展の歴史
第 33 回	欧米の公衆衛生の歩み
第 34 回	我が国の公衆衛生の歩み
第 35 回	消毒法の歴史
第 36 回	理容師・美容師と公衆衛生
第 37 回	歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生
第 38 回	公衆衛生理容師・美容師
第 39 回	保健所と理容業・美容業
第 40 回	保健母子保健
第 41 回	成人・高齢者保健
第 42 回	精神保健
第 43 回	環境衛生の内容
第 44 回	環境衛生の目的と意義
第 45 回	環境衛生活動
第 46 回	空気環境
第 47 回	空気と健康
第 48 回	温度、湿度、気流（風）と健康
第 49 回	衣服・住居の衛生
第 50 回	衣服の衛生
第 51 回	住居の衛生
第 52 回	上・下水道と廃棄物
第 53 回	上水道
第 54 回	下水道
第 55 回	廃棄物
第 56 回	衛生害虫とネズミ
第 57 回	衛生害虫
第 58 回	ネズミ
第 59 回	環境保全
第 60 回	水質汚濁

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	保健	課 目	必修課目	単 位 数	2 (卒業までに計3)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うため、皮膚・毛髪などの正確な科学的知識を身に付けさせる				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造、機能、皮膚やその付属器官毛髪の詳細を理解できる。
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	頭部、顔部、頸部の体表解剖学
第 2 回	骨角器系
第 3 回	筋系
第 4 回	神経系
第 5 回	感覚器系
第 6 回	血液・循環器系
第 7 回	呼吸器系
第 8 回	消化器系
第 9 回	皮膚の表面・断面
第 10 回	表皮・真皮
第 11 回	皮下組織
第 12 回	皮膚の部位差
第 13 回	毛
第 14 回	脂腺（皮脂腺）
第 15 回	汗腺
第 16 回	爪
第 17 回	皮膚の血管
第 18 回	皮膚のリンパ管
第 19 回	皮膚の神経
第 20 回	対外保護作用
第 21 回	体温調整作用
第 22 回	知覚作用と皮膚反射
第 23 回	分泌排泄作用
第 24 回	呼吸作用
第 25 回	吸収作用
第 26 回	貯蔵作用
第 27 回	免疫・解毒・排泄作用
第 28 回	再生作用
第 29 回	毛のはたらき
第 30 回	爪のはたらき

授業計画・内容	
第 31 回	皮膚と全身状態
第 32 回	皮膚と精神
第 33 回	皮膚と栄養
第 34 回	皮膚とし好品
第 35 回	皮膚と体内病変
第 36 回	皮膚の水分と脂の状態
第 37 回	皮膚・付属器官とホルモン
第 38 回	皮膚の保護と手入れ
第 39 回	毛の保護と手入れ
第 40 回	爪の保護と手入れ
第 41 回	子どものおしゃれによる皮膚トラブル
第 42 回	皮膚の異常とその種類
第 43 回	皮膚疾患の原因
第 44 回	皮膚疾患の治療法
第 45 回	皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹
第 46 回	口唇の疾患
第 47 回	温熱・寒冷による皮膚障害
第 48 回	角化異常による皮膚疾患
第 49 回	色素異常による皮膚疾患
第 50 回	血管腫（アカアザ）
第 51 回	脂腺母斑
第 52 回	下肢静脈瘤
第 53 回	分泌異常による皮膚疾患
第 54 回	化膿菌による皮膚疾患
第 55 回	ウイルスによる皮膚疾患
第 56 回	真菌による皮膚疾患
第 57 回	衛生害虫による皮膚疾患
第 58 回	感染症の皮膚疾患の予防
第 59 回	毛と爪の疾患
第 60 回	皮膚の腫瘍

令和2年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	香粧品化学	課 目	必修課目	単 位 数	2 (卒業までに計2)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うため、香粧品の正確な科学的知識・取り扱い方法を身に付けさせる				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	人体に有害に働くかないと認められるための正しい使用方法、安全に取り扱うために必要な知識を身に付ける。
成績評価	単位認定（進級）試験 60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	香粧品概論
第 2 回	香粧品の社会的意義
第 3 回	香粧品の品質と必要条件
第 4 回	香粧品の定義
第 5 回	香粧品の製造販売の規制
第 6 回	香粧品の品質等の規制
第 7 回	香粧品の表示・広告の規制
第 8 回	香粧品の安定性
第 9 回	香粧品の継時変化
第 10 回	香粧品の使用上、取り扱い上の注意
第 11 回	香粧品と安全性
第 12 回	表示成分と安全性
第 13 回	香粧品によるトラブル
第 14 回	香粧品原料
第 15 回	香粧品の種類と機能
第 16 回	皮膚と水
第 17 回	頭皮や毛髪の健康な状態
第 18 回	爪の性状
第 19 回	まぶたや口唇の性状
第 20 回	香粧品のなりたち
第 21 回	水
第 22 回	エタノール（エチルアルコール）
第 23 回	油脂
第 24 回	ロウ類
第 25 回	炭化水素
第 26 回	その他の油性原料
第 27 回	油性原料の機能
第 28 回	界面活性剤の基本的性質
第 29 回	界面活性剤の種類
第 30 回	界面活性剤の香粧品への応用

授業計画・内容	
第 31 回	香粧品用原料（界面活性剤）
第 32 回	香粧品用原料（高分子化合物）
第 33 回	香粧品用原料（色材）
第 34 回	香粧品用原料（香料）
第 35 回	香粧品用原料（その他の配合成分）
第 36 回	香粧品用原料（ネイル・まつ毛エクステンション用材料）
第 37 回	基礎香粧品（皮膚清浄用香粧品）
第 38 回	基礎香粧品（化粧水）
第 39 回	基礎香粧品（クリーム・乳液）
第 40 回	基礎香粧品（その他の基礎香粧品）
第 41 回	メイクアップ用香粧品（種類と剤形）
第 42 回	メイクアップ用香粧品（ベースメイクアップ香粧品）
第 43 回	メイクアップ用香粧品（ポイントメイクアップ香粧品）
第 44 回	毛髪用香粧品（シャンプー剤）
第 45 回	毛髪用香粧品（スタイリング剤）
第 46 回	毛髪用香粧品（パーマ剤）
第 47 回	毛髪用香粧品（ヘアカラー剤）
第 48 回	毛髪用香粧品（育毛剤）
第 49 回	芳香製品と特殊香粧品（芳香製品）
第 50 回	芳香製品と特殊香粧品（特殊香粧品）
第 51 回	香粧品化学を理解するための基礎化学（復習）
第 52 回	香粧品概論（復習）
第 53 回	香粧品用原料（復習）
第 54 回	基礎香粧品（復習）
第 55 回	メイクアップ用香粧品（復習）
第 56 回	毛髪用香粧品（復習）
第 57 回	芳香製品と特殊香粧品（復習）
第 58 回	国試対策（模擬試験）
第 59 回	国試対策（模擬試験）
第 60 回	国試対策（模擬試験）

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	文化論	課 目	必修課目	単 位 数	1 (卒業までに計2)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を全うするために、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養う				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美的感覚と表現力を養うと共に、美容やファッションの文化史を学びヘアデザインに役立てる
成績評価	課題評価 60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	
第 2 回	ファッション文化史 西洋編（古代）（中世）（近世）（近代）（現代）
第 3 回	
第 4 回	日本の理容業・美容業の歴史（理容業・美容業の発生）
第 5 回	日本の理容業・美容業の歴史（江戸時代の理容業・美容業）
第 6 回	日本の理容業・美容業の歴史（近代・現代の理容業・美容業）
第 7 回	
第 8 回	ファッション文化史 日本編（縄文・弥生・古墳時代）
第 9 回	
第 10 回	ファッション文化史 日本編（古代／飛鳥・奈良・平安時代）
第 11 回	
第 12 回	ファッション文化史 日本編（中世／平安末・鎌倉・室町・戦国時代）
第 13 回	
第 14 回	ファッション文化史 日本編（近世 I ／戦国末・安土桃山時代）
第 15 回	
第 16 回	ファッション文化史 日本編（近世 II ／江戸時代）
第 17 回	
第 18 回	ファッション文化史 日本編（近代／明治・大正・昭和 20 年まで）
第 19 回	
第 20 回	ファッション文化史 日本編（現代 I ／1945 年～1950 年代）
第 21 回	
第 22 回	ファッション文化史 日本編（現代 II ／1960 年～1970 年代）
第 23 回	
第 24 回	ファッション文化史 日本編（現代 III ／1980 年～1990 年代）
第 25 回	
第 26 回	ファッション文化史 日本編（現代 IV ／2000 年代以降）
第 27 回	礼装の種類（和装・洋装）
第 28 回	
第 29 回	国試対策（模擬試験）
第 30 回	

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	技術理論	課 目	必修課目	単 位 数	2(卒業までに計5)
授業方法	講義・実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務における衛生・能率的に実施する態度・習慣を養い、科学的合理的な方法を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	シャンプー、カット、パーマ、カラー、日本髪、着付けなどの基礎的技術理論を身に付ける。
成績評価	単位認定(進級) 試験60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	エステティック概論・皮膚の生理と構造
第 2 回	カウンセリング
第 3 回	美容におけるマッサージ理論・フェイシャルケア技術
第 4 回	フェイシャル及びデコルテマッサージ
第 5 回	フェイシャルパック・ボディケア技術・ボディマッサージ
第 6 回	ネイル技術概論・ネイル技術の種類・爪の構造と機能
第 7 回	爪のカット形状・ネイル技術と公衆衛生・カウンセリング
第 8 回	ネイルケア
第 9 回	アーティフィシャルネイル
第 10 回	手と足のマッサージ
第 11 回	メイクアップ概論・顔の形態学的な観察
第 12 回	メイクアップと色彩・皮膚の生理と構造・メイクアップの道具
第 13 回	スキンケア・ベースメイクアップ
第 14 回	アイメイクアップ・アイブロウメイクアップ・リップメイクアップ
第 15 回	ブラッシュオンメイクアップ・まつ毛エクステンション
第 16 回	日本髪の由来・日本髪の各部の名称・日本髪の種類と特徴・日本髪と調和・日本髪の装飾品
第 17 回	日本髪の結髪道具・日本髪の結髪技術・日本髪の手入れ・かつら
第 18 回	着付の目的・礼装・着物と季節・着物のいろいろ
第 19 回	帯・小物
第 20 回	着物各部の名称・着物のたたみ方
第 21 回	着付けの一般的要領・留袖着付け技術
第 22 回	振袖着付け技術
第 23 回	帯締め・帯揚げの結び方
第 24 回	男子礼装羽織・袴着付け技術
第 25 回	羽織のひもの結び方
第 26 回	女子袴着付け技術
第 27 回	婚礼着付けの際の注意事項
第 28 回	和装花嫁
第 29 回	洋装花嫁

授業計画・内容	
第 30 回	第 1 章復習
第 31 回	
第 32 回	第 2 章復習
第 33 回	
第 34 回	第 3 章復習
第 35 回	
第 36 回	第 4 章復習
第 37 回	
第 38 回	第 5 章復習
第 39 回	
第 40 回	第 6 章復習
第 41 回	
第 42 回	第 7 章復習
第 43 回	
第 44 回	第 8 章復習
第 45 回	
第 46 回	第 9 章復習
第 47 回	
第 48 回	第 10 章復習
第 49 回	
第 50 回	第 11 章復習
第 51 回	
第 52 回	第 12 章復習
第 53 回	
第 54～ 60 回	国試対策（模擬試験）

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科目名	美容実習（カット）	課目	必修課目	単位数	3（卒業までに計7）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教科書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ヘアスタイルをつくる上で重要なカッティング基礎技術（毛髪の長さ・疎密調節）を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容			
第1～ 15回	国試課題レイヤーカット	タイム計測25分	机上の使い方、道具の置き方
第16～ 30回	国試課題レイヤーカット	タイム計測25分	自己採点の仕方
第31～ 45回	国試課題レイヤーカット	タイム計測25分	ヘムラインのチェック
第46～ 60回	国試課題レイヤーカット	タイム計測25分	バックサイドラインのチェック
第61～ 70回	国試課題レイヤーカット	タイム計測25分	サイドつながりラインのチェック
第71～ 80回	国試課題レイヤーカット	タイム計測25分	アウトラインのチェック
第81～ 90回	国試課題レイヤーカット	タイム計測20分	机上準備　衛生の指導　消毒方法

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	美容実習(ワインディング)	課 目	必修課目	単 位 数	3(卒業までに計6)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ヘアスタイルを形成保持する上で欠くことのできないパーマネントウェーブの技法を身につける
成績評価	単位認定(進級) 試験60点以上

授業計画・内容

第1～ 88回	新課題流しスタイル20分×4回 机上の使い方、衛生、消毒の仕方 全体のバランス
第88～ 90回	確認試験 新課題流しスタイル20分 机上の使い方、衛生、消毒の仕方 採点・評価

令和2年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	美容実習(オールウェーブ)	課 目	必修課目	単 位 数	3(卒業までに計4)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ヘアスタイルを形づくる技術であるオリジナルセットの基本を中心に身につける
成績評価	単位認定(進級) 試験60点以上

授業計画・内容

第1～ 30回	7段構成、フロントピンカール スカルプチュアカール リフトカール メイポール クロッキノール確認
第31～ 87回	準備時間7分 7段構成、25分 ピニングの確認 机上の使い方 衛生の処置 消毒法、終了の仕方
第88～ 90回	7段構成、25分 ピニングの確認 机上の使い方 衛生の処置 消毒法、終了の仕方 確認試験

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	パーソナルカラーII	課 目	選択課目	単 位 数	1 (卒業までに計1)
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務におけるファッションと、肌や髪色を基礎とするパーソナルカラーの知識を身に付ける				
教 科 書	パーソナルカラリスト検定2級・1級公式テキスト				

到達目標	色彩を扱う際に必要な知識と技能を身につけ、カラリストの資格取得を目指す
成績評価	単位認定(進級) 試験60点以上

授業計画・内容	
第 1 回	2級配色対応確認
第 2 回	1章 色彩と文化
第 3 回	染色と顔料
第 4 回	ヨーロッパの色の歴史
第 5 回	2章 色彩理論
第 6 回	混色 混色のパターン 三原色
第 7 回	試験
第 8 回	照明と色
第 9 回	光源の種類と用途
第 10 回	色の知覚効果 色の見え方
第 11 回	色の見え方の変化
第 12 回	対比現象
第 13 回	3章 CUS配色調和論
第 14 回	色調の変化とアンダートーン
第 15 回	アンダートーンにおける色相と色調の関係
第 16 回	CUSアンダートーン分類
第 17 回	4章 色彩を活かすテクニック
第 18 回	ファッション概論
第 19 回	ディスプレイと色彩
第 20 回	5章 パーソナルカラリスト シーズンカラー
第 21 回	ブライダルと色彩 ファッション用語
第 22 回	6章 色彩論の不譜
第 23 回	色の分類の始まり 実用的な色彩調和論
第 24 回	7章 CUS配色調和論
第 25 回	アンダートーンと色調配色
第 26 回	8章 CUS配色調和を活かすテクニック
第 27 回	配色調和の応用
第 28 回	模擬試験
第 29 回	2級受験対策復習
第 30 回	2級受験対策復習

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	美容総合演習	課 目	選択課目	単 位 数	1 (卒業までに計1)
授業方法	演習・講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うため衛生管理等の総合的な科学的知識・豊かな教養を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	
成績評価	単位認定(進級) 試験60点以上

授業計画・内容	
第1・2回	関係法規制度概論
第3・4回	関係法規制度演習
第5・6回	衛生管理概論
第7・8回	衛生管理演習
第9・10回	保健概論
第11・12回	保健演習
第13・14回	香粧品化学概論
第15・16回	香粧品化学演習
第17・18回	文化論概論
第19・20回	文化論演習
第21・22回	美容技術理論概論
第23・24回	美容技術理論演習
第25・26回	運営管理概論
第27・28回	運営管理演習
第29・30回	国家試験模擬試験

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	美容総合技術(サロンII)	課 目	選択課目	単 位 数	3 (卒業までに計3)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術を基に、さらに高度な総合的技術・知識を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美容師として重要なシャンプーイング・ヘアカラーリングなどの基本技術と接客術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画		内容
第 1～回	シャンプー&ブロー	相モデル実習（バック）
第 4～回	シャンプー&ブロー	相モデル実習（サイド）
第 7～回	シャンプー&ブロー	相モデル実習（バック／サイド）
第 10～回	縦巻きパーマ	ウィッグ実習（フォワード）
第 13～回	縦巻きパーマ	ウィッグ実習（リバース）
第 16～回	縦巻きパーマ	ウィッグ実習（フォワード／リバース）
第 19～回	パーマ	相モデル実習（カウンセリング～施術）
第 22～回	パーマ	相モデル実習（カウンセリング～施術）
第 25～回	パーマ	相モデル実習（カウンセリング～施術）
第 28～回	カラーリング	理論（酸化染毛剤／酸性染毛料）
第 31～回	カラーリング	塗布技術ウィッグ実習（スライシング）
第 34～回	カラーリング	塗布技術ウィッグ実習（ウイービング）
第 37～回	カラーリング	塗布技術ウィッグ実習（ホイルワーク）
第 43～回	カラーリング	塗布ウィッグ実習（おしゃれ染め）
第 46～回	カラーリング	塗布ウィッグ実習（おしゃれ染め）
第 49～回	カラーリング	塗布ウィッグ実習（白髪染め）
第 52～回	カラーリング	塗布ウィッグ実習（白髪染め）
第 55～回	カラーリング	塗布モデル実習／3名チーム（カウンセリング～施術）
第 58～回	カラーリング	塗布モデル実習／3名チーム（カウンセリング～施術）
第 61～回	カラーリング	塗布モデル実習／3名チーム（カウンセリング～施術）
第 64～回	カラーリング	塗布モデル実習／3名チーム（カウンセリング～施術）
第 67～回	カラーリング	塗布モデル実習／3名チーム（カウンセリング～施術）
第 70～回	カラーリング	塗布モデル実習／3名チーム（カウンセリング～施術）
第 73～回	カラーリング	復習・確認
第 76～回	カラーリング	国試対策（トーンダウン）
第 79～回	カラーリング	国試対策（トーンダウン）
第 82～回	シャンプー&ブロー	相モデル実習（バック／サイド）
第 85～回	シャンプー&ブロー	相モデル実習（バック／サイド）
第 88～回	シャンプー&ブロー	相モデル実習（バック／サイド）
第～90 回	シャンプー&ブロー	相モデル実習（バック／サイド）

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	ヘアデザインII	課 目	選択課目	単 位 数	2 (卒業までに計2)
授業方法	演習主・実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	カット、パーマ、カラー、などの技術理論を身に付けた上で、総合技術でヘアデザインを創る
成績評価	課題評価60点以上

授業計画・内容	
第1～ 4回	ヘアデザイン総合演習
第5～ 8回	ヘアデザイン総合演習
第9～ 12回	ヘアデザイン総合演習
第13～ 16回	基礎総合技術を活かしたヘアデザイン（個別テーマ）
第17～ 20回	基礎総合技術を活かしたヘアデザイン（個別テーマ）
第21～ 24回	基礎総合技術を活かしたヘアデザイン（個別テーマ）
第25～ 28回	基礎総合技術を活かしたヘアデザイン（個別テーマ）
第29～ 32回	基礎総合技術を活かしたヘアデザイン（個別テーマ）
第33～ 36回	総合技術を活かしたヘアデザイン創作
第37～ 40回	総合技術を活かしたヘアデザイン創作
第41～ 44回	総合技術を活かしたヘアデザイン創作
第45～ 48回	総合技術を活かしたヘアデザイン創作
第49～ 52回	総合技術を活かしたヘアデザイン創作
第53～ 56回	総合技術を活かしたヘアデザイン創作
第57～ 60回	総合技術を活かしたヘアデザイン創作

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	ヘアアレンジII	課 目	選択課目	単 位 数	1 (卒業までに計1)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	アップスタイルの技術を身につけた上で、総合技術を活かしたスタイル創作を行う
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第1・2回	基礎総合技術を活かしたスタイルデザイン（個別テーマ）
第3・4回	基礎総合技術を活かしたスタイルデザイン（個別テーマ）
第5・6回	基礎総合技術を活かしたスタイルデザイン（個別テーマ）
第7・8回	基礎総合技術を活かしたスタイルデザイン（個別テーマ）
第9・10回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第11・12回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第13・14回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第15・16回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第17・18回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第19・20回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第21・22回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第23・24回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第25・26回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第27・28回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第29・30回	基礎技術確認

科 目 名	美容総合技術（アイII）	課 目	選択課目	単 位 数	2（卒業までに計2）
授業方法	講義・実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術を基に、さらに高度な総合的技術・知識を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	まつ毛エクステンションを安全・安心に施術するための基礎的な理論・技術を身につける
成績評価	出席・課題完成度80%以上

授業計画・内容	
第1回～	まつ毛エクステンション概論／用具説明・使用上の注意
第5回～	まつ毛エクステンションの用具
第9回～	衛生管理／ワゴンセッティング・手指消毒
第13回～	衛生管理／固定テープの貼り方・まつ毛クレンジング
第17回～	ツイーザーの持ち方・まつ毛のかき分け方・Jカール装着・グルーの取り扱い
第21回～	保健／Jカール装着
第25回～	Jカール装着・リムービング
第29回～	保健／Cカール装着
第33回～	保健／Cカール装着・リムービング
第37回～	Jカール装着・リムービング
第41回～	手指消毒・エクステンション装着・リムービング
第45回～	カウンセリング理論／固定テープ（両目貼り）・まつ毛クレンジング
第49回～	カウンセリング理論／Jカール装着・リムービング
第53回～	手指消毒・エクステンション装着・リムービング
第～60回	理論復習／固定テープ（両目貼り）・まつ毛クレンジング

科 目 名	美容総合技術(エステⅡ)	課 目	選択課目	単 位 数	1 (卒業までに計 1)
授業方法	講義・実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術を基に、さらに高度な総合的技術・知識を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美しく健康な皮膚を維持する生理機能を整えるためマニピュレーションなどの技術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60点以上

授業計画・内容	
第 1～2 回	エステティック概論
第 3～4 回	ワゴンセッティング、ベッドメイキング
第 5～6 回	ポイントクレンジング、ハンドクレンジング、ふき取り
第 7～8 回	相モデル実習
第 9～10 回	ポイントクレンジング～ハンドクレンジング～ふき取り
第 11～12 回	皮膚の生理と構造
第 13～14 回	相モデル実習
第 15～16 回	フェイシャルマッサージ
第 17～18 回	皮膚の生理と構造
第 19～20 回	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック
第 21～22 回	皮膚の生理と構造、カウンセリング、スキンチェック
第 23～24 回	機器の取り扱い：スチーマー、ブラシクレンジング、吸引
第 25～26 回	マッサージ理論、衛生と消毒
第 27～28 回	検定対策
第 29～30 回	復習・確認

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科 目 名	美容総合技術（ネイルII）	課 目	選択課目	単 位 数	1（卒業までに計1）
授業方法	実習	授業時期	後期	実務経験	有しない教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術を基に、さらに高度な総合的技術・知識を身に付ける				
教 科 書	JNA テクニカルシステム（ベーシック）、公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ネイルの基礎知識・技術を基に、技能検定3級の実力やネイルアート表現力などを身につける
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第1・2回	JNEC ネイリスト技能検定3級対策
第3・4回	JNEC ネイリスト技能検定3級対策
第5・6回	JNEC ネイリスト技能検定3級対策
第7・8回	JNEC ネイリスト技能検定3級対策
第9.10回	JNEC ネイリスト技能検定3級対策
第11.12回	JNEC ネイリスト技能検定3級対策
第13.14回	アートチップ製作
第15.16回	アートチップ製作
第17.18回	アートチップ製作
第19.20回	アートチップ製作
第21.22回	アートチップ製作
第23.24回	ネイルサロンワーク ロールプレイング
第25.26回	ネイルサロンワーク ロールプレイング
第27.28回	ネイルサロンワーク ロールプレイング
第29.30回	ネイルサロンワーク ロールプレイング

令和3年度 総合美容コース 第2学年 シラバス

科目名	美容総合技術(メイクII)	課目	選択課目	単位数	1 (卒業までに計1)
授業方法	実習	授業時期	後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術を基に、さらに高度な総合的技術・知識を身に付ける				
教科書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	メイクの基礎的な技術を発展させ、陰影を再現した多様な顔の印象を表現する技術を身に付ける
成績評価	単位認定（進級）試験60点以上

授業計画・内容	
第1・2回	概要解説 テキスト確認
第3・4回	スキンケア～アイプロウメイク 肌理論
第5・6回	ベースメイク コントロールカラー理論 肌理論
第7・8回	ベースメイク コントロールカラー～コンシーラー 肌理論
第9.10回	ベースメイク～ポイントメイク（ハイライト・ノーズシャドー） 紫外線理論
第11.12回	シェーディング・骨格修正 理論（メイクアップの用具～カウンセリング）
第13.14回	アイラッシュメイク 手順と効果 理論（スキンケア～ベースメイクアップ）
第15.16回	アイシャドー① スチール撮影メイクテクニック 理論（チーク・ハイライト・シャドー）
第17.18回	アイシャドー② 舞台・ショーメイクテクニック 理論（ポイントメイクアップ）
第19.20回	チーク・リップメイク 理論（男性メイクアップ）
第21.22回	トータルメイクアップ 理論（メイクアップにおける色彩学）
第23.24回	実技検定内容タイム計測①
第25.26回	実技検定内容タイム計測②
第27.28回	検定試験対策（実技） 手順工程・衛生面確認
第29.30回	検定試験対策（学科） 対策模擬プリント

科 目 名	美容総合技術(和装II)	課 目	必修課目	単 位 数	2(卒業までに計2)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術を基に、さらに高度な総合的技術・知識を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	日本の伝統的な文化・風俗を学びながら、新日本髪・着付けの基礎技術を身につける
成績評価	単位認定(進級) 試験60点以上

授業計画・内容	
第1回～	留袖着付け(復習)
第5回～	留袖着付け(復習)
第9回～	留袖着付けの帯結び
第13回～	留袖着付けの帯結び
第17回～	留袖着付けの帯結び完成
第21回～	振袖着付け
第25回～	振袖着付けのおはしょり
第29回～	振袖着付けの伊達締め(復習)
第33回～	振袖着付けの帯結び(説明)
第37回～	振袖着付けの帯結び(復習)
第41回～	振袖着付けの帯揚げ(説明)
第45回～	振袖着付けの帯(復習)
第49回～	振袖着付けの帯(復習)
第53回～	振袖着付け(確認)
第～60回	着付けまとめ